

CO₂フリー電力に転換

前田道路 全合材を低炭素合材に

前田道路は、全拠点の稼働電力を「RE100(再生可能エネルギー100%)」対応の実質的にCO₂がフリーとなる電力に転換した。合材をCO₂フリー電力で製造するため、全ての合材を低炭素合材として出荷することになる。子会社である日本バイオフォーエルのバイオ重油製造事業に伴う削減量と併せて、2024年度は年間で約6万トンのCO₂排出量を削減する。さらなるCO₂排出削減に寄与するだけでなく、カーボンニュートラル社会の実現に向けて業界をけん引したい考え。

同社は23年まで、一部の工場、研究所、本支店で実質CO₂フリー電力の導入を進めてきた。4月からは未導入工場に加えて、全国100カ所以上の営業所にも導入してい

る。同社が製造、販売を促進する低炭素合材は、中温化技術(フォームドアスファルト技術)やCO₂フリー電力の使用、廃食油を使ったバイオマ

ス燃料など、さまざまな低炭素の手法を利用して製造したアスファルト混合物となる。低炭素合材の販売時に削減したCO₂排出量を見える化する施策として、同社独自のC

CO₂削減証明書である「アクションレポート」を発行している。施工業者の環境行動のPRに役立つという。

同社の23年度の低炭素合材の製造・販売量は、全合材製造量の65%を占める460万トだった。アクションレポートの発行実績は1900件を越え、アクションレポートで見える化したCO₂排出量は約7700トとなった。低炭素合材は、1700カ所以上の自治体や企業に採用されている。

